

## 小喜茂別岳（970m）

2018年12月22日（土）

CL 山岸

山スキー組 L 藤木晴、SL 西田ほか6人

スノーシュー組 L 鈴木、SL 小笠原ほか

8人 合計19人

今シーズン初めてのスノーシュー登山に期待と不安で不眠のS子とE子も集う。

伊達道の駅に非情な小雨が降っているも、

リーダーは「山は晴れる」と力強く宣言。

7:00 出発。

8:30 黒川橋手前の駐車場に到着。

駐車場から国道の脇をスキーやスノーシューを肩にかついで歩くが、ビュンビュンと飛ばす車が怖い。登山口でスキーやスノーシューを装着し、準備体操。



9:20 ビーチチェックを受けて歩き始める。  
(アルコールチェックは無いのかな?)



約15分毎にスキー組もスノーシュー組も先頭を交代しながら、前に進む。山はリーダーの言うとおりの雨も降らず無風で暖かい。



林の中はかすんでいて幻想的だ。真っ白な雪が木々に積もっていて、「一つ目小僧だ」「鶴だ」「中華まんじゅうだ」と勝手な名前をつけていく。高くそびえるトドマツ(?)は巨大なクリスマスツリーのような。ああ、冬の山は美しく、楽しく、山は止められない。



11:40 雪がしまっていないので、スキー組のあとに行くスノーシュー組もかなり難儀し、足がもつれてきたので標高850m付近でインディアンテントを張り、スノーシュー組は先に昼の宴とする。(犬も歩けば棒にあたる。「人も歩けば雪に転ぶ」。犬棒カルタに付け加えなくちゃ・・・)



12:00 スキー組は頂上に到着。コンパスが

指す磁針と頂上はピッタリだった。いつもの頂上に変化はなかった。集合写真を撮り、シールをはがし、滑降モードに移り、誰も転ぶことなく、スノーシュー組が待つインディアンテントを目指す。

(記録文：栗山、写真と文：澤田合作)



12:20 スキー組は15分ほどでスノーシュー組と合流。スノーシュー組は頂上を制覇し、凱旋してきたスキー組に暖かいテントを譲る。「そのままテントを借用でき、スノーシュー組のみなさんに感謝します」とリーダー。

12:30 スノーシュー組が下山開始。



空は青く澄み、まるで春だと心も軽く下っていく。

13:30 スキー組にスノーシュー組があつという間に追いつかれつつも、スノーシュー組は登山口へ。全員そろって駐車場へ戻る。

14:00 駐車場出発。

15:10~15:55 洞爺いこいの湯でほっこり。

16:45 伊達道の駅着。明日の満月が橙のように空へ浮かんでいる。

楽しい山行をありがとうございました。